

第8回“学びをひろげる わたしと〇人の会”を開きました。

今回は「高校生の学び」について考えてみました。本来自我が確立し社会的興味や関心が広がっている高校生は、最も主体的な学習ができる年代であるはずなのに、その学習の姿を知る機会がなかなか持てませんでした。そんな中で府立高校教員である西山卓彦さんが、実践報告をしてくださいました。

高校1年生のクラスで、「キャリア教育も含めた広い意味での人権教育」の学習の中の、冬の人権企画（テーマ「障害は不便であるが、不幸ではない」）の報告でした。

①「車椅子のアーティスト」として各地で公演活動をしている、先天性四肢欠損症の障害のある歌手・佐野有美（サノ・アミ）さんの映像を Youtube で観る。

②世界の教育の流れを授業で学ぶ

エクスクルージョン・Exclusion（排除） → セグレイション・Segregation（分離） → インテグレーション・Integration（統合） → インクルージョン・Inclusion（包括）

③「みんなの学校 大空小学校」のDVD（「ニュースアンカー」11分）を観る。

④地域にある社会福祉法人の施設長（卒業生でもある）を招いて講演会。

おおよそ以上の内容で、11月から12月にかけて取り組まれました。

各時間を終えて生徒たちが感想や意見、考えを書きますが、それらをまとめた「冬の人権企画振り返り感想集」を作成し全員に配布しています。

▼（Aさんの感想）障害者を「分離」「排除」するのは、絶対よくない。その障害者だって、そう生まれたくて生まれたわけじゃないだろうし、本当はみんなと一緒に勉強もしたいだろうし、外でいっぱい遊びたいんだと思う。はじめから分離などして普通の子と離したら、楽しみも嬉しさもわからなくなる。いっしょに過ごせばいい。けれど、簡単なことではない。だから、周りの人もみんな協力したらいいと思う。

▼（Bさんの感想）僕が話を聞いて思ったことは、「障がいの人は人とちがうところがいっぱいある。でも、障がい者には人とちがっても、障がい者なりの出来ることや、やり方がある。」ということだ。障がいには、色々な種類があった。目が不自由、足がない、その他の色々な障がいがあって、その障がいにあわせたやり方や、色々な工夫がされていることが分かった。僕たち障がいのない人は、障がいのある人には優しくして、気配りをしていきたいなと思った。

報告の後質問に移ると、参加者から矢継ぎ早に質問や意見が出ました。「生徒たちが真剣なのは伝わるが、どの感想もいいことばかりで、できすぎているのではないだろうか」「障害者を批判するような生徒や、ちがった意見を持っている生徒を紹介して、みんなで話し合うようなことはできないか」、（報告者から）「まじめすぎるように見えるかもしれないが、普段の授業では決して見られない真剣さで、ビデオを観て、考え、感想を書く生徒の姿もあった」・・・等々。

「受験勉強が横行している高校の中で、生徒が人権問題のビデオを観る、感想や意見を書くことができるということがすばらしい」との意見も出されました。「（進学校だったけれど）1年生の4月に同じクラスの生徒が急にいなくなって、それを担任も何も説明しなかったし、クラスの生徒たちが疑問の一言も挙げず、何もなかったかのように高校生活が進んで行った。自分も聞けなかった。それが高校の実態だ」と、自分の高校時代の経験から高校のあり方への批判も出されました。

「では、どうすれば高校は変わるのか、変えられるのか?!」との課題が出されたところに、映画『みんなの学校』の監督真鍋俊永さんが忙しい中駆けつけてくださいました。今回の授業でもテレビ版『みんなの学校 大空小学校』を教材として使っていることもあり、真鍋さんからみた大空小学校や教育について語っていただきました。私（松森）はその中で特に、「でき

るかできないか”ではなく、“やりたいかやりたくないか”の問題だと思っています」との言葉と、「一人では難しいかもしれないけれど、3人いればやれる」との大空小学校の木村校長の言葉を紹介された発言が心に残りました。各地の試写会などを通して数多くの人たちから質問を受け、また話し合ってもらったにちがいないと、一人ひとりの質問や意見にいかにも真鍋さんらしい誠実さで応えられている姿を想像しながら、強く感じました。具体的で実践的な言葉だと。

その後、「やりたいかどうかの問題ではなくて、法や制度をつくらなくてはいけない」「高校の現状を思えば、『やらなあかん』し、『一人』でもはじめなあかん」との強い発言がありました。

今回は初めての「高校の学び」をテーマにした研究会だったので、「高校での授業をどうつくるのか」よりも、まず「高校の現状を知る」ことを目標にしました。その意味では十分参加者の中に興味をひろげ共有することができたと思います。次回も続けて、「高校生の学び」をテーマに、実際の授業実践の報告を受けて話し合いたいと考えています。

